

九神ファームめむろの雇用形態

勤務時間：9:30～17:00
(実働6.5時間)
休暇：月8日
給与：約11万
その他：社会保険加入
保護者交流会、社員旅行等あり



農業OBの高齢者から、農作業を学ぶ



ジャガイモの加工作業

「九神ファームめむろ」の様子



九神ファームめむろ

平成28年度に加工場を増設
今後は豆や大根等の加工にも取り組む

町内企業での一般就労を目指して

町では、平成28年4月から、町内の企業を対象とした障がい者雇用促進の取組を開始し、障がい者雇用に対する意識調査や企業訪問、企業説明会を開催しています。

就労希望者と企業とのマッチングや職域開拓、定着支援等は、NPO法人「プロジェクトめむろ」が行っており、就労支援を受けていた障



地産地消コミュニティレストラン「ばあばのお昼ごはん」での接客風景

指し、NPO法人「プロジェクトめむろ」が設立。同年10月には、町内に活動拠点として地産地消コミュニティレストラン「ばあばのお昼ごはん」を開店しました。
このレストランは、新たな障がい者の働く場となり、また、町民に障がい者が働く姿を身近に感じてもらえる場ともなっています。

この町に来て生涯を！プロジェクトの更なる展開

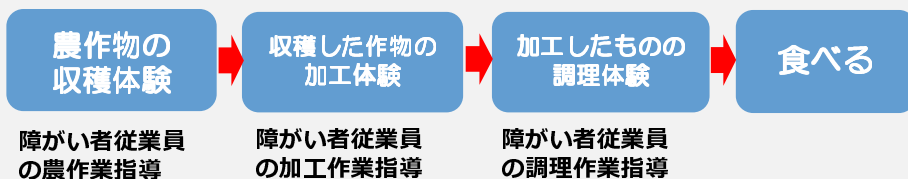
就労支援を受け町内企業に就労した方（昼食休憩中の様子）



が、障がい者2名が既に町内企業への一般就労を果たしました。
障がい者が働ける場所をより拡大することを目指し、この取組を継続していきます。

今後は、農福連携を活用した就労の場の提供を、芽室町の障がい者だけでなく、町外の障がい者にも対象を広げていきたいと考えており、町では、現在、都市部を中心とした特別支援学校の修学旅行などの誘致を計画しています。修学旅行では、「九神ファームめむろ」での農作業や食品加工体験、「ばあばのお昼ごはん」での調理接客体験、また宿泊施設である国民宿舎でのホテル業務体験など、実際に働く障がい者がアテンド役となり、農と食の一連の

体験型就労キャリア教育inめむろ



全工程で働く障がい者が作業指導を実施

流れを通して、働く力や想いを継承していく「就労キャリア教育観光事業」を展開します。
そして、今後整備を進める「生活（居住）の場」の提供と併せて、障がい者を町外からも「働き手」として芽室町に呼び込み、新たな雇用の創出、生産性の向上を図り、障がい者が生涯働いて生きていける町を目指していきます。

ShiriBeshi



世界が注目する国際リゾート資源を活かした地方創生への取組

後

志

ShiriBeshiグローバル
人材育成プラン

しりべし「まち・ひと・しごと」
マッチングプラン

世界が注目するリゾート地
ShiriBeshiの強み

ニセコ・ルスツ・キロロを中心に
良質のパウダースノーがゲレンデで
気軽に楽しめることから、国内
はもとより、オーストラリアをはじめ
めとした、海外からの観光客が多く
来訪している後志地域。

コンドミニアム等の宿泊施設を利用
した長期滞在客も数多く、ここ数年
は香港やシンガポールなど東アジア
圏からの観光客も増加しており、
香港やマレーシアなどアジア資本に
よる大規模リゾート開発も計画され
ています。

そんな国際的なリゾート地である
後志地域は、外国人観光客や外国人
住民が多いといった国際性豊かな地
域特性が強みです。

後志地域では、こうした強みを活
かし、冬に多く訪れる国内外の方々
に、冬だけではなく、夏場の就労場
所も提供し、移住に繋げることを目
指す「しりべし『まち・ひと・しごと』
と『マッチングプラン』と、国際
性の豊かな人材を育成するShiriBeshi
グローバル人材育成プラン」に、官
民協働のもと、取り組んでいます。



北海道後志総合振興局 北海道教育委員会後志教育局 小樽市 島牧村 寿都町 黒松内町 蘭越町 ニセコ町 真狩村
留寿都村 喜茂別町 京極町 倶知安町 共和町 岩内町 泊村 神恵内村 積丹町 古平町 仁木町 余市町 赤井川村

道（後志総合振興局）では、管内のリゾート企業、農業協同組合、市町村とタイアップ協定を締結し、地域が一体となった取組を推進しています。

しりべし「まち・ひと・しごと」 マッチングプラン

後志地域は、冬になると、国内外から多くの若者が、リゾートを訪れ、働きながらスノーアクティビティなどを楽しんでいます。彼らの大半は春になると、本州や本国に帰ってしまいます。

こうした若者を対象に、農協や商工団体等と連携し、夏季就業希望者へ求人情報を紹介する「就業フェア」を開催するなど、通年就業による地元定着を促進するとともに、東京での「北海道移住フェア」への参加など、後志地域に人を「呼び込む」ための取組を行っています。

また、冬季に数多く訪れる外国人の就業を促進するため、英語対応可能な相談員（コンシエルジュ）を配置しています。

Shiribeshi グローバル人材育成プラン

外国人観光客や外国人住民が多い後志地域の国際性豊かな地域特性を活かし、地域がリゾート企業等と連携して、国際力を備えた人材を育成する取組が「Shiribeshiグローバル人材育成プラン」です。

主な取組としては、地域の住民団体が主催する国際交流等の行事に管内で活躍する国際経験豊かな人材

マッチングプラン



就業フェアにおいて外国人の就労と居住の相談に応じる倶知安町の農協職員。英語を使用して相談者に丁寧に応じる。



マッチングプランにおいて、倶知安町内にある「割烹 肴座 花鯛」で就労している山口良行氏。

「就労先と共に住まいの紹介もしてもらえたことが移住へと繋がった」と話す。

（日本人・外国人）を派遣する「グローバルサポーター派遣事業」のほか、地域で伝統芸能や学校での課外活動等に取り組み小中高校生を対象に、外国人観光客が多いリゾートエリアでブレゼンする機会を提供する「英語ブレゼン・ブース提供事業」、若者の国際力向上と地域への誇りの醸成を目指し、道外の学生を対象に留学の疑似体験を行うなど、英語環境を活かした人材の呼び込みを進めています。

これまでの手応えと 将来ビジョン

「しりべし『まち・ひと・しごと』マッチングプラン」で、これまでに採用が決定したのは20名（うち外国人6名）で、農業の他、アウトドアやリゾート関係への就業にも繋がっています。

また、「Shiribeshiグローバル人材育成プラン」により、地域の小中高校生が英語で話すことを臆さなくなったといった声が学校から聞こ

えるなど、この2つプランは、地域に確かな手応えを与えています。これらの実績を糧にして、アジアNO.1のリゾートエリアを目指すとともに、国内外からの移住者を増やすことで、より地域が発展していけるよう、引き続き、取組を加速していきます。

グローバル人材育成プラン



小樽市緑上部町で、ALTが町内会館で小学生を対象にした英会話教室を行う光景。物怖じせず、ALTに英語で話す子ども達。



キロ口地区（赤井川村）で、外国人を前に伝統芸能である神恵内松前神楽を披露する地域の中学生。



ルスツ地区（留寿都村）で、外国人と一緒にプリザーブドフラワーの作成を行う留寿都高校生。

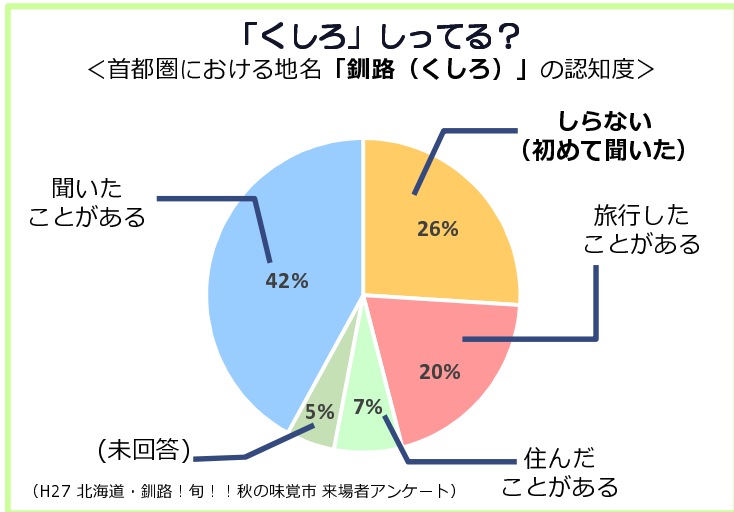
来て見て 好きになる 知って 好きになる

荒川区と連携した「くしろ」創生の取組

首都圏のみなさん

くしろくしろく

首都圏との「連携」により地域の再興を目指す取組が釧路地域で始まっています。従来の観光振興や物販だけではない、交流人口の拡大、「ファンの獲得」と地域創生に向けた釧路地域の取組の「いま」と「これから」をお伝えします。



こうした中、地方創生の動きを追い風に、特別区長会と北海道町村会との間で、相互の強みを活かした連携・交流を深めていくという気運が生まれ、平成27年9月、

釧路地域は、釧路湿原をはじめとする雄大な自然や豊富な食、アイヌ文化などの素晴らしい魅力に恵まれた地域ですが、首都圏における認知度は必ずしも高いとは言えず、交流人口の拡大に繋がる地域ブランディングと発信力の強化が課題となっていました。

首都圏の4人に1人が知らない「くしろ」

全道の町村会の先陣を切って、釧路管内全8市町村と北海道釧路総合振興局などで構成する「北海道釧路地域・東京都特別区交流推進協議会」（以下「協議会」という。）を設置し、荒川区との間で連携を開始しました。



東京都荒川区と「くしろ」の連携の取組

～「くしろ」創生の動き～

東京23区と道内各地域との連携促進に向け、「くしろ」地域の特性を活かした地域プロモーションを行うことで、首都圏において「くしろファン」を獲得し、また、先進事例として他地域への取組の波及を狙います。

荒川区と連携した「くしろ」創生のイメージ

- 観光客・教育旅行の誘致拡大
- 立体映像でくしろを体験
- 地域特性を活かしたヘルスツーリズムの促進
- くしろの特産品の販売拡大
- 先進事例として道内他地域に波及
- くしろのマルシェ in 日暮里の開催

首都圏におけるファンの獲得



～「北海道・釧路！旬！！秋の味覚市」の様子～



◀ 管内全8市町村と民間企業が協働して水産物・乳製品などの特産品を販売、大好評を博しました。会場を訪れた人からは「美味しいものがたくさんあって、とても楽しめた」「もっと開催してほしい」という有難いご意見も。



初回開催時のアンケートから、釧路の認知度の低さを改めて痛感。二度目の開催に合わせて、釧路地域の魅力を伝えるため、VR（バーチャルリアリティ）映像を作成し、「くしろ」を体感していただきました。

「くしろ」を満喫できるイベントには、

来場者の声から生まれた体験型の最新コンテンツも

東京23区・特別区長会と北海道町村会の連携の第一弾として、協議会では、「北海道・釧路！旬！！秋の味覚市」を開催。
荒川区のJR日暮里駅前イベント広場で月に一度開催される「につぼりマルシェ」の中で、釧路地域の自慢の味覚を販売するブースを出店しただけでなく、釧路の魅力が詰まった体験型コンテンツも展示し、訪れた人から「釧路への興味が深まった」というお声もいただきました。

まずは、知ってもらおうと「ろから」。

「くしろ」を伝える交流推進員

協議会では、平成28年10月から釧路地域と東京都特別区との連携活動の橋渡し役となる交流推進員を、釧路市東京事務所（千代田区内）に配置しています。

交流推進員は、協議会の窓口として連携事業の推進・調整を行うだけでなく、釧路地域を紹介するプロモーション映像を使って、地域の魅力を積極的に発信しています。

協議会としては、こうした地道な地域セールスを続けることで、「くしろ」の魅力発信につなげたいと考えています。



交流人口の拡大へ
目指すは、ディープな「ファン」の獲得

地方創生の取組を進める上で、交流人口拡大は大変重要な課題です。釧路地域と荒川区との連携は緒に就いたばかりですが、これまでの物販をはじめとした「モノの交流」に加え、滞在型観光や移住といった「人

いますぐ体感！「くしろ」の魅力

VR映像は、公式サイト「Kushiro-VR」
(<http://kushiro-vr.com/>) で公開しているので、スマホで、その場で「くしろ」が体感できますよ！



「くしろ」の魅力がリアルに伝わるVR映像

※ イメージ

の交流」など連携をさらに発展させていくこととしています。

具体的には、釧路地域の魅力をリアルに伝えるVR映像の作成や、荒川区の広報番組での地域の魅力の紹介、地域特性を活かした教育旅行やヘルスツーリズムの推進に現在取り組んでいます。こうした取組を通じ、「くしろファン」を獲得し、誘客の拡大、さらには移住・定住の拡大につなげていきたいと考えています。

特別区と北海道町村会の連携事業第1号として発進した釧路地域と荒川区の取組ですが、様々な連携・交流を積極的に実践していくことで、釧路地域へのさらなる交流人口の拡大を目指すこととしています。

道内の
地方創生 topics

赤れんが・地域応援シニアバンク



平成29年4月から運用スタート

道と道総研のOB・OGが
地域課題の解決に向けた取組をサポートします!!

赤れんが・地域応援シニアバンクとは？

市町村や地域の公共的・公益的団体の円滑な業務推進をサポートするため、幅広い行政分野において、専門的な知識や経験、技能などを有する道や道総研のOB・OGを登録し、市町村等の求めに応じて、登録者を紹介する制度です。

例えばどんな支援が受けられるの？

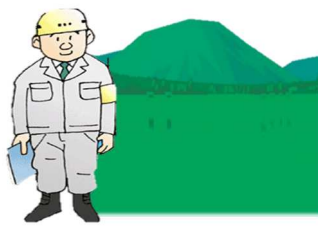
建設部OB

道路管理や災害復旧について
技術的な助言やノウハウを
提供



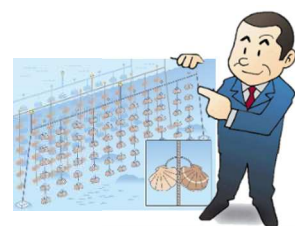
水産林務部OB

森林・林業経営に係る
技術的な助言や森林認証
の取得に係る業務支援



道総研OB

水産動植物の増養殖に
関する技術的支援や助言



興味のある市町村や公共的団体の皆様、まずはご相談を！

お問合せ先：011-206-7296（直通）

総合政策部地域創生局地域戦略課地域調整グループ

URL：http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/csr/chicho/seniorbank/toppage.htm

※最寄りの振興局地域政策課でも相談を受け付けていますので、お気軽に相談してください！

“赤れんが・地域応援シニアバンク”で
検索してください！

バックナンバーは、創るWEBで

北海道創生ジャーナル

検索



URL：http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/csr/chicho/tsukuru/toppage.htm